

平成 30 年度 保育所の自己評価

みらいつぼみ保育園

平成 30 年度は、集団保育を経験することも意識した保育計画のもと、1 歳児、2 歳児ともに、連携園のそれぞれのクラスとの交流の機会を多く作るようにしました。特に、3 月は一日のうちのほとんどの時間を連携園で過ごす計画をたて、連携園の担当保育士と密に連携をとり、進級がスムーズにできるよう配慮しました。

また、日常の保育では、今年度から 1 歳児 2 歳児のみの定員構成にしたこともあり、年少の子どもたちは年長の子どもたちをモデルとして成長していったと思います。

年度の途中で、パート保育士の急逝という予期せぬ出来事がありましたが、連携園との協力のもと、滞りなく保育を遂行することができました。

今年度も職員たちは、連携園の会議・研修・行事等のすべてを一緒に行い、情報を共有して保育にあたりました。

《保育所自己評価表による、評価結果》

※保育士全員による横浜市公立保育所の自己評価表での評価結果

※A：おおむね達成できている

B：具体的に実施しているが成果が出ていないか、一部実施できていない

C：具体的に実施できていないか、一部しか実施していない

1.保育理念

I-1 子どもの最善の利益の考慮

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ① 子どもの人権尊重 | A |
| ② 保育方針・保育目標 | A |
| ③ II-1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場 | |
| ① 健康安全で心地よい生活 | A |
| ② 子どもの主体的な生活 | A |
| ③ 人との関わりを育む環境 | おおむね A |

2.子どもの発達援助

Ⅱ-2 生活と発達の連続性

- ① 子ども観・発達観の理解と共有
発達過程に応じた保育 A
- ② 個人差への配慮
生活の連続性 A

Ⅱ-3 養護と教育の一体的展開

- ① 保育における養護と教育の一体化 おおむね A
- ② 配慮を必要とする子どもの保育環境
おおむね A

Ⅱ-4 環境を通して行う保育

- ① 環境を通して行う保育の重要性の共通理解
おおむね A

3.保護者支援

Ⅲ-1 家庭との緊密な関係

- ① 子どもの成長の喜びを共有 A
- ② 子育てに関する相談援助 おおむね A
- ③ 虐待等の個別支援 A

Ⅲ-2 地域における子育て支援

- ① 保育所の機能の開放 おおむね B
- ② 関係機関との連携 B
- ③ 情報提供 B

4.保育を支える組織的基盤

Ⅳ-1 健康及び安全の実施体制

- ① 快適で安全な環境整備 A
- ② 配慮を要する子どもの個別配慮 A
- ③ 食育への取り組み おおむね A
- ④ 施設内外の安全衛生管理体制 A
- ⑤ 家庭・地域社会・関係機関との連携
おおむね A

Ⅳ-2 職員の資質向上

- ① 保育指針に基づいた保育計画 A

- | | |
|------------|--------|
| ② 保育士の自己評価 | A |
| ③ 保育所の自己評価 | A |
| ④ 研修体制が整備 | おおむね A |
| ⑤ 計画的な人材育成 | B |

IV-3 運営・管理、社会的責任

- | | |
|-----------------|---|
| ① 関連法令を遵守している | A |
| ② 苦情解決制度が機能している | A |
| ③ 個人情報の取り扱い | A |
| ④ 施設長の役割と責任 | A |

5.保護者アンケート

平成31年3月 実施

配布数 10世帯

回答数 10世帯 (回答率 100%)

	十分できている	おおむねできている	改善を要する	わからない
総合満足度	90%	10%	0%	0%

保護者アンケートの結果は、ほとんどの保護者から「十分できている」という回答結果で、一定の評価をしていただいていると判断させていただきました。

改善を要する回答の項目は、問12の「子どもの体調への気配りや怪我に対して配慮がされているか」という項目でした。改めて、毎日の子どもの状態の確認と、安全管理を徹底してまいります。

また、園の目標や方針の説明、行事や保育の内容の説明に対して、「おおむねできている」という回答や、ご意見やご要望、相談等について話しにくいと感じていらっしゃるご家庭も少数ですがおありでした。このことに関しても、丁寧に情報発信をすること・保護者が気軽に声をかけやすい雰囲気を作っていくよう、取り組んでまいります。

平成31年3月27日